

◆先輩からのアドバイス◆

深く追求することは広く追求することの逆を指さないという話

琉球大学は7つの学部と8つの研究科から成るいわゆる総合大学です。更にその中に様々な学科や専攻があります。どの分野もそれぞれ異なる事情や性質を持っていると思いますが、この話はどこで何を学ぶにしても大事になってくることだと思います。

私の信条の一つに「一流は万に通じる」というものがあります。これはある教育者の言葉です。一流は万に通じるとはどういうことでしょうか。平たく言うと、優れた人間は様々なことに精通しているということです。実際に私が出会ってきた「一流」達もそうだったように思われます。また、ある一流の科学者はこのように言っていました。「千の備えで一使えれば上等」。言い回しは異なりますが、これら2つの言葉は本質的には近い何かを共有しているように思われます。

私の専門分野は理論言語学という分野です。この分野の有名な研究者として黒田成幸という言語学者がいます。黒田先生は数学者としての一面も持ち、絶筆として「数学と生成文法」という論考を残しています。私は数学的な手法を用いてなされた言語研究に以前から興味があり、この論考にも興味を持ちました。しかし、未だに全てを読み終えてはいません。内容が難解すぎるためです。ゼータ関数を用いて言語の一般化を図るという内容のようですが、私には数学のバックグラウンドがありませんので全く理解ができません。私は大学4年で今の研究室に入ってから、私なりに精一杯言語学を極めようと努力してきました。しかし、前述の論考を理解するには至っていないのです。このことから私が学んだことは「何かを極めることはそれ以外の何かを蔑ろにしてい理由にはならない」ということです。

自分は文系だから数学ができなくても問題ないと思っではないのでしょうか。そのような考え方は、例えば卒業研究で統計に触れる際に困ることになるかもしれません。理系も同様です。英語の勉強は積極的にしておくべきです。本格的に研究が始まると英語の文献を多く読まなければなりませんから。話を学外まで拡大しても同様のことが言えます。例えば公務員試験では、一般教養として高校基礎レベルの全ての主要科目の問題が出題されます。加えて専門試験では経済や法律など、門外漢には極めて難解な内容が出題されます。自身の専門分野や興味関心のあることについて時間を割くのは当然ですが、その過程で何かを切り捨てれば思わぬところで足を引っ張られる可能性があるのです。

学生生活は大変貴重です。限られた時間の中で自身の専門分野を目一杯頑張りたいと考えている方も多いと思います。物事を「深く」探求することはとても重要ですが、その一方である程度「広く」学んでいくことの重要性もここで強調しておきたいと思います。

(人文社会科学研究科 M2)